

米の消費拡大運動「ご炊こうチャレンジ」への農林水産省の参加について

- 米消費拡大の機運を盛り上げるためスタートした「ご炊こうチャレンジ」。農林水産省も令和3年4月27日から全省を挙げて参画。
- 第1弾動画としては、**野上農林水産大臣（当時）**も出演する「大臣におにぎり食べてもらった。タガヤセキュウシュウ」動画を公開するとともに、特設ページ「ご炊こうチャレンジ！いただきMAFF！」を「やっぱりごはんでしょ！」サイト内にオープン。
- 第1弾動画を皮切りに全国のBUZZ MAFFチームが動画を順次掲載し、総再生回数は80万回以上と米の消費を盛り上げている。

「ご炊こうチャレンジ」とは

米消費拡大の機運を盛り上げるため、ごはんを炊く「コト消費」をテーマとした動画を投稿する取組であり、JAグループが主体となって始めたもの。

令和3年3月29日から全国の自治体、米関係者も巻き込んで実施中。

特設ページ「ご炊こうチャレンジ！いただきMAFF！」

全国の農水省BUZZ MAFFユーチューバーの作成する「ご炊こうチャレンジ」の動画を掲載。



ごはんを炊く「コト消費」をテーマとした動画を投稿する「ご炊こうチャレンジ」。農林水産省も全国を挙げて参加します。全国のBUZZ MAFFチームが、ごはんを炊く楽しさをみなさまに伝える動画をどんどん配信！米の消費を盛り上げていきます。みなさまも、動画を参考に、ぜひ美味しいごはんを炊いて、食べてみてください。

野上農林水産大臣(当時)出演動画

動画公開後、18万回以上再生されており、好評。コメント欄には、米の消費に対するポジティブな意見が寄せられている。



「大臣におにぎり食べてもらった。タガヤセキュウシュウ」

BUZZ MAFFチームの動画



吉本興業と農林水産省のタイアップ（米消費拡大動画等の作成）

- 農林水産省は、特に次の時代を担う若い「Z世代」を重点ターゲットとして捉え、食と農の魅力や重要性、生産現場の努力や創意工夫を若者たちの間で共有しやすい情報として発信することで理解を深め、農業・農村の次世代への継承に繋げていくことを目指す「ニッポンフードシフト」を実施。
- その中で、地方創生やSDGsなど地域の様々な課題解決に取り組む吉本興業と連携した「よしもともニッポンフードシフト」を実施し、Z世代を中心に広がりのある情報を発信。
- 消費拡大動画（「食」にまつわる名前の芸人とのコラボ）では、米の消費拡大に関する動画等を作成し情報発信。

農林水産省

- 農業・農村の重要性や持続性の確保への理解とともに、消費者の行動変容を促し、食や農業めぐる幅広い課題の解決を目指す。
- 行動変容を促すため、「食から日本を考える。」という消費者側の視点に立ち、より受け入れ易い多様な選択肢と、より理解が深まるストーリー性のある発信を目指す。



←公式ウェブサイト



- 「あなたの街に住みますプロジェクト」により、地域の観光振興、活性化を目指す。各自治体とも連携し、動画等による地域情報を発信。
- SDGsの推進を国連広報センターや各企業・団体と連携したイベント・講演会、企業・自治体の研修などの取組により広く推進。



吉本興業

「食」にまつわる名前の芸人や47都道府県の「住みます芸人」の動画配信により、関心を持ちやすく、分かりやすい情報発信

米の消費拡大

米については、農産局穀物課×芸人ライスで若者の米の消費拡大を目指す「新世代“ご飯のお供”選手権」動画を作成。



ライス

農業に関する新たな技術

米関連技術では、芸人銀シャリが中干しの技術を、芸人笑い飯が米の乾燥技術を学ぶ等の動画を作成。

イネの中干し

×



銀シャリ

米の乾燥技術

×



笑い飯

産地と中食・外食事業者等の米マッチングについて

- 全国農業再生推進機構等は、農林水産省の支援の下、中食・外食向けニーズに応じた安定取引の推進のため、商談会を開催。
- 令和2年度開催の「米マッチングフェア2020」では、オンラインでの商談会を実施し、売り手（JA、農業生産法人等）121団体、買い手（中食・外食事業者等の実需者）306社が参加。
- 令和3年度は、業務用米マッチングサイトを新たに構築するとともに、現地商談会を全国9ヶ所（岩手、秋田、山形、福島、新潟（2ヶ所）、埼玉、大阪、岡山）で開催。

米マッチングフェア2021 パンフレット



業務用米マッチングサイトの構築



米マッチングフェア2020 開催状況



オンライン商談会の様子(2/9)



オンラインセミナーの様子(2/16)

マッチング商談事例

①関東の生産法人が、健康食品のメーカーと、発芽玄米の原料として、400トンの契約栽培が決定。

②東北の生産法人が愛知県に本部のあるステーキレストランチェーンと業務用途米「めんこいな」の契約栽培を開始。